

34103 救急・へき地医療体制の整備

(主担当:保健衛生室 健康増進課)

主な取組内容

1. 地域住民の救急医療を確保するため、伊賀管内の一次救急、二次救急および救命救急医療体制の整備を行います。
2. 救急告示医療機関との連携を図ります。

1 地域救急医療対策事業

伊賀地域内の救急医療体制の存続を図るため、関係機関等が地域の実情にあった体制の整備として2市における輪番体制の運用について検討された。また、救急搬送における救命率を向上すべく、メディカルコントロール協議会において気管挿管、薬剤投与などのプロトコルが検討された。

(1)伊賀地域メディカルコントロール協議会

- ア 開催日時 平成19年6月7日(木)
- イ 開催場所 伊賀庁舎4階第4会議室
- ウ 出席者数 12名

(2)伊賀地域救急医療体制会議

- ア 開催日時 平成20年2月15日(金)
- イ 開催場所 伊賀医師会館1階会議室
- ウ 出席者数 40名



2 救急告示病院

救急告示病院は、地域における救急業務の対象となる傷病者の発生状況等を勘案して認定する。

(1) 伊賀地域救急告示病院

平成20年4月1日現在

名称	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
伊賀市立上野総合市民病院	518-0823	伊賀市四十九町831	24-1111	24-2268
医療法人 岡波総合病院	518-0842	伊賀市上野桑町1734	21-3135	21-5237
医療法人 森川病院	518-0854	伊賀市上野忍町2516の7	21-2425	24-2815
名張市立病院	518-0481	名張市百合が丘西1番町178	61-1100	64-7999

34105 骨髄バンク・臓器移植等の推進

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

主な取組内容

1. 「愛の血液助け合い運動」をはじめとするキャンペーンに取り組み、献血思想の普及啓発等による献血の推進をはかり県内で必要な血液を確保します。
2. 休日ドナー登録をはじめとする骨髄バンク普及啓発およびドナー登録の推進をはかり、新規ドナー登録者の確保に努めます。
3. 県民に臓器移植に対する理解と協力を求めるため、啓発事業を行います。

1 献血推進

医療に必要な血液製剤をすべて自国の献血で確保する体制を早期に確立するため、献血思想の普及、献血組織の充実に努めた。特に輸血の安全性向上させる400ml献血及び成分献血への理解と協力を図っている。

また、少子高齢化の進行により献血可能人口の減少が避けられないなか、将来の献血事業を担う若年層対し、献血思想の普及啓発を推進した。管内高校(10校)を訪問し、献血の啓発とヤングミドナサポーター事業への協力を依頼した。

その結果、上野工業高校、あけぼの学園高校、上野農業高校の3校が文化祭で啓発活動を実施し、あけぼの学園高校、上野高校、上野商業高校、名張桔梗丘高校、上野農業高校、日生学園第一高校よりヤングミドナ

サポーターとして51名の登録があり、伊賀市、名張市の愛の助け合い運動、はたちの献血キャンペーン等で献血意識の普及啓発活動に協力いただいた。

(1)「愛の助け合い運動」の実施

期 日	場 所	申込者数	献血者数
平成19年7月9日	アピタ伊賀上野店	68名	56名
平成19年7月11日	ジャスコ新名張店	77名	57名

(2)「はたちの献血キャンペーン」の実施

期 日	場 所	申込者数	献血者数
平成20年1月14日	アピタ伊賀上野店	63名	47名
平成20年2月15日	ジャスコ新名張店	69名	51名

(3)移動採血車による市別献血状況

平成19年度実績

市町別	献血者数			
	400mL	200mL	成分献血	計
伊賀市	2,113	1	0	2,114
名張市	889	0	0	889
伊賀管内	3,002	1	0	3,003
三重県	31,964	8	0	31,972

2 骨髄バンク

白血病や再生不良性貧血など血液難病の患者にとって生への希望である骨髄バンクが円滑に実施されるよう、骨髄移植に関する正しい知識の普及啓発を行い、骨髄提供希望者登録(ドナー登録)の推進を図った。

(1)骨髄提供登録受付窓口業務

毎月第2水曜日に登録受付を実施し、平成19年度は7人の登録があった。

(2)臨時ドナー登録受付の実施

管内市における6ヶ所の献血会場にて受付を実施した結果5名の登録があった。

(3)ボランティア団体との連携

骨髄バンクを支援するボランティア団体(勇気の会伊賀支部)が毎月1回、伊賀市ふれあいプラザにおいて定例会を開催しており、保健所職員も適宜出席している。

34106 難病患者等の支援

(主担当:保健衛生室 地域保健課)

主な取組内容

- 1 原子爆弾被爆者の健康管理や各種手当の支給等を実施します。
- 2 難病患者およびその家族のQOL(生活の質)の向上をはかります。

1 原子爆弾被爆者対策事業

原子爆弾被爆者の援護に関する法律により、被爆者健康手帳所持者の健康管理のため、毎年2回の定期健康診断及び希望者に対してがん検診を実施した。
また、同法に基づく各種手当を対象者に支給した。

(1)被爆者健康手帳所持者 72人 平成20年3月31日現在

	伊賀市	名張市
所持者数	31	41

(2)被爆者健康診断受診状況

ア 定期健康診断受診者数

第1回 37人 (内要精検者数 10人)

第2回 38人 (内要精検者数 5人)

イ がん検診受診者数

平成20年3月31日現在

	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	多発性 骨髄腫	大腸がん
受診者数	3	3	1	1	1	3
要精検者数	0	0	0	0	0	0

(3)各種手当受給状況

平成20年3月31日現在

	医療 特別 手当	健康管理 手当	保健手当 (一般)	保健手当 (増額)	介護手当	家族介護 手当	葬祭料
支給対象者数	1	66	0	1	0	7	3

2 難病対策事業

(1) 特定疾患治療研究事業

特定疾患として指定された45疾患について、医療費を助成し、治療の促進を図るため、申請により特定疾患医療受給者証を交付した。また、症状が改善され、経過観察等一定の通院管理のもとで、著しい制限を受けることなく就労を含む日常生活を営むことができる方には特定疾患登録者証を交付した。

特定疾患医療受給者数

平成20年3月31日現在

疾患名		男	女	合計
総計		351	507	858
1	ベーチェット病	12	6	18
2	多発性硬化症	4	17	21
3	重症筋無力症	6	12	18
4	全身性エリテマトーデス	9	52	61
5	スモン	1	1	2
6	再生不良性貧血	9	7	16
7	サルコイドーシス	6	9	15
8	筋萎縮性側索硬化症	11	7	18
9	強皮症、皮膚筋炎又は多発性筋炎	14	64	78
10	特発性血小板減少性紫斑病	12	24	36
11	結節性動脈周囲炎	4	8	12
12	潰瘍性大腸炎	45	55	100
13	大動脈炎症候群	1	8	9
14	ビュルガー病	13	0	13
15	天疱瘡	5	5	10
16	脊髄小脳変性症	11	18	29
17	クローン病	21	11	32
18	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	0	0
19	悪性関節リウマチ	0	4	4
20	パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	55	83	138
21	アミロイドーシス	1	2	3
22	後縦靭帯骨化症	24	10	34
23	ハンチントン舞蹈病	0	0	0
24	モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	1	8	9
25	ウェゲナー肉芽腫症	1	0	1
26	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	27	8	35
27	多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10	5	15
28	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0	0	0
29	膿疱性乾癬	0	1	1
30	広範脊柱管狭窄症	10	12	22
31	原発性胆汁性肝硬変	3	27	30
32	重症急性膵炎	1	0	1
33	特発性大腿骨頭壊死症	7	6	13
34	混合性結合組織病	1	11	12
35	原発性免疫不全症候群	1	0	1
36	特発性間質性肺炎	7	3	10
37	網膜色素変性症	17	19	36
38	プリオン病	0	1	1
39	原発性肺高血圧症	0	1	1
40	神経線維腫症	1	0	1
41	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0
42	バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0	0	0
43	特発性慢性肺血栓栓塞症(肺高血圧型)	0	2	2
44	ライソゾーム病	0	0	0
45	副腎皮質ジストロフィー	0	0	0

(2) 特定疾患登録者数

平成19年度中に登録された人数

疾患名		男	女	合計
総計		6	3	9
1	(1)ベーチェット病	0	0	0
2	(3)重症筋無力症	0	0	0
3	(4)全身性エリテマトーデス	0	0	0
4	(6)再生不良性貧血	0	0	0
5	(7)サルコイドーシス	0	0	0
6	(9)強皮症、皮膚筋炎又は多発性筋炎	0	0	0
7	(10)特発性血小板減少性紫斑病	0	0	0
8	(11)結節性動脈周囲炎	0	0	0
9	(12)潰瘍性大腸炎	0	0	0
10	(13)大動脈炎症候群	0	0	0
11	(14)ビュルガー病	0	0	0
12	(15)天疱瘡	0	0	0
13	(17)クローン病	0	1	1
14	(19)悪性関節リウマチ	0	0	0
15	(22)後縦靭帯骨化症	3	2	5
16	(24)モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	0	0	0
17	(25)ウェゲナー肉芽腫症	0	0	0
18	(28)表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)	0	0	0
19	(29)膿疱性乾癬	0	0	0
20	(30)広範脊柱管狭窄症	1	0	1
21	(33)特発性大腿骨頭壊死症	2	0	2
22	(34)混合性結合組織病	0	0	0
23	(36)特発性間質性肺炎	0	0	0
24	(42)バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0	0	0

(3) 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

先天性血液凝固因子欠乏症として指定された11疾患について、医療費を助成し、治療の促進を図るため、申請により先天性血液凝固因子障害等医療受給者証を交付した。

平成20年3月31日現在

疾患名		受給者証 交付件数
1	第Ⅰ因子(フィブリノゲン)欠乏症	0
2	第Ⅱ因子(プロトロンビン)欠乏症	0
3	第Ⅴ因子(不安定因子)欠乏症	0
4	第Ⅶ因子(安定因子)欠乏症	0
5	第Ⅷ因子欠乏症(血友病A)	3
6	第Ⅸ因子欠乏症(血友病B)	1
7	第Ⅹ因子(スチュアートプラウア因子)欠乏症	0
8	第ⅩⅢ因子(フィブリン安定化因子)欠乏症	0
9	Von Willebrand(フォン・ヴィルブランド)病	1
10	第ⅩⅠ因子(PTA)欠乏症	0
11	第ⅩⅡ因子(ヘイグマン因子)欠乏症	0

3 難病在宅ケア事業

(1) 事業目的

管内における患者の実態を明らかにし、在宅ケアを支えるための医療・保健・福祉を包括した援助体制づくりを推進する。

(2) 事業名

難病患者の在宅療養支援体制の構築

(3) 事業対象

管内に在住の難病患者及びその家族。

(4) 事業の選定理由

管内における特定疾患医療受給者数は、年々増加する傾向にある。

難病は、原因不明で、治療法が未確立・経過が長期にわたるものがほとんどで、患者及び家族は、身体的・精神的・経済的等のさまざまな問題を抱えている。

当保健福祉事務所では、平成8年度から難病対策として、所内面接・家庭訪問・関係機関との連携会議等を実施してきたが、難病患者が在宅で生活するには、課題も残されている。

今年度も昨年度に引き続き、個別ケアを中心とした支援活動を充実させながら、保健・医療・福祉の連携を深め、さまざまな症例を地域で支えていけるようなネットワークづくりを行っていく必要がある。

(5) 事業内容

ア 在宅患者支援システムの構築

関係機関との連携を深め、地域に根ざしたネットワークづくりを実践することを目的に会議等を開催した。

(ア) 難病地域ケア会議(実務者)開催結果について

開催日 病名	関係機関名	検討内容
平成19年4月24日 筋萎縮性側索硬化症	訪問看護ステーション(訪問看護師) 社会福祉協議会(介護支援専門員) 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・訪問看護の導入について ・呼吸困難等症状の急変時の対応について
平成19年5月7日 筋萎縮性側索硬化症	地域包括支援センター(社会福祉士) 社会福祉協議会(介護支援専門員・ヘルパー) 事業所(福祉用具専門相談員) 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・ヘルパーの役割について ・移送サービスの導入について ・電動車椅子の危険防止について
平成19年6月21日 多系統萎縮症	病院(主治医・看護師長・OT・PT・ST) 複合福祉施設(介護支援専門員) 訪問看護ステーション(訪問看護師) 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・現在の症状と障害の確認について ・退院後の療養生活支援について ・介護者への支援について
平成19年10月25日 筋萎縮性側索硬化症	病院(看護師長) 社会福祉協議会(介護支援専門員) 難病医療専門員 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・退院後の療養生活支援(訪問看護・ヘルパーの導入)と役割の確認について ・糖尿病の管理(食事・インシュリン)について
平成19年12月7日 筋萎縮性側索硬化症	病院(主治医) 社会福祉協議会(介護支援専門員) 難病医療専門員 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・退院後の療養生活支援について ・意志伝達装置の使用について ・今後のレスパイト入院について
平成20年2月27日 プリオン病	居宅介護支援センター(介護支援専門員) 地域包括支援センター(社会福祉士・相談員) 行政(介護保険課・高齢障害課職員、伊賀保健福祉事務所保健師)	・疾患の理解について ・要介護者に対するこれまでの支援経過と今後の取り組みについて
平成20年3月4日 プリオン病	居宅介護支援センター(介護支援専門員) 地域包括支援センター(社会福祉士・相談員) 行政(介護保険課職員、伊賀保健福祉事務所保健師)	・支援経過確認と在宅療養支援、医療のショートステイ利用について ・疾患の研修会の計画について
平成20年3月12日 プリオン病	居宅介護支援センター(介護支援専門員) 地域包括支援センター(相談員) 社会福祉協議会(相談員・訪問看護師・ヘルパー) 行政(伊賀保健福祉事務所保健師)	・医療のショートステイの利用見込について ・具体的な在宅サービス導入について
平成20年3月17日 プリオン病	居宅介護支援センター(介護支援専門員) 地域包括支援センター(社会福祉士・相談員) 行政(介護保険課職員・伊賀保健福祉事務所保健師)	・在宅支援のためのケアプランについて ・研修会の詳細内容と役割分担について

イ 個別ケアの充実

(ア) 特定疾患医療受給者証交付申請時における所内面接

申請者の中でも、疾患の理解・治療・予後等について特に不安の強い時期であると予測される新規申請者（主に神経難病患者）に対して、面接により医療や生活面等の相談に応じた。なお、平成19年度の主な神経難病の新規申請者数は次のとおりであった。

平成20年3月31日現在

疾患番号	疾患名	新規受給者数
(1)	ベーチェット病	2人
(2)	多発性硬化症	2人
(3)	重症筋無力症	1人
(8)	筋萎縮性側索硬化症	5人
(16)	脊髄小脳変性症	3人
(20)	パーキンソン病関連疾患	18人
(27)	多系統萎縮症	1人

(イ) 家庭訪問

患者や家族、医療機関その他関係機関から依頼のあったケースを中心に家庭訪問を実施し、関係機関と連携して課題の改善のため支援を行った。

訪問は、ケアマネージャーや訪問看護師、難病医療専門員と同行し、関係職種でケースの課題の共有や支援の方向性の確認に努めた。

疾患別訪問実施状況

平成20年3月31日現在

疾患群	疾患名	延べ件数
神経系疾患	筋萎縮性側索硬化症(ALS)	17件
	プリオン病	2件
	多系統萎縮症	1件
	パーキンソン病	3件
合計		23件

(ウ) 電話相談・面接相談

在宅療養上の患者や家族の相談や関係機関との連絡調整、また特定疾患申請手続き等に関する相談に対応した。

平成20年3月31日現在

方法	相談内容	延べ件数
電話相談	療養相談、制度等	376件
	関係機関との連絡調整	171件
	合計	547件
面接相談	新規申請・変更に関する事	271件
	療養相談等に関する事	224件
	合計	495件

ウ 在宅医療・介護相談事業

(ア) 難病療養相談

管内には専門医療機関が少ないことから、専門医の相談を希望する患者と家族に対して、療養生活が適切に行われるよう医療・福祉・栄養・リハビリ等の総合的な療養相談を実施した。その実施状況は以下のとおりである。

実施月日	平成19年10月29日(月)
場所	伊賀庁舎
対象者	神経難病患者と家族(パーキンソン病除く)
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・三重大医学部付属病院神経内科医師 ・名張市立病院理学療法士 ・介護支援専門員 ・身体障害者相談支援専門員 ・難病医療専門員 ・保健福祉事務所管理栄養士、保健師
相談件数 (延べ)	医療相談 6件 リハビリ相談 4件 福祉相談(身障) 3件 福祉相談(介護) 3件 栄養相談 2件 看護(生活)相談 4件

(イ) 訪問療養相談

在宅で寝たきり状態であるために、長期間にわたり専門医の診察や福祉サービス利用・栄養相談等療養上の相談を受けることが困難な患者及び家族に対し、療養生活が適切に行われるよう、医療・福祉等の専門職による訪問療養相談を実施した。

訪問療養相談実施結果

開催月日	平成20年3月10日(月)
対象者	ALSの患者と家族 1件
スタッフ	三重大学医学部付属病院医師 訪問看護ステーション看護師 ・ 難病医療専門員・保健福祉事務所保健師

エ 事例検討会・研修会等

(ア) 事例検討会

難病患者が在宅療養するうえでの様々な課題に対し、保健・医療・福祉の関係者が集まり、患者のQOL向上や関係者の役割等を明確にすることを目的として事例検討会を開催した。

事例検討会実施状況

開催日・場所	疾患・内容	参加者
平成19年4月5日 社会福祉協議会	パーキンソン病 内容:精神症状への対応 服薬確認 危険防止について	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション看護師 ・社会福祉協議会介護支援専門員 ・伊賀保健福祉事務所保健師
平成19年5月9日 訪問看護 ステーション	筋萎縮性側索硬化症 内容:誤嚥の予防と呼吸困難時の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション看護師 ・難病医療専門員 ・伊賀保健福祉事務所保健師
平成19年10月25日 社会福祉協議会	筋萎縮性側索硬化症 内容:痰の誤嚥防止 レスパイト入院について	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション看護師 ・社会福祉協議会介護支援専門員 ・難病医療専門員 ・伊賀保健福祉事務所保健師
平成20年1月16日 患者宅	筋萎縮性側索硬化症 内容:危険防止について 往診医の導入について 食事の自助具について	<ul style="list-style-type: none"> ・患者及び家族 ・社会福祉協議会介護支援専門員 ・訪問看護ステーション看護師 ・難病医療専門員 ・保健福祉事務所保健師

(イ) 研修会等

開催日・場所	内容	参加者
平成20年1月23日 名張市 総合福祉センター	講義「難病患者への支援」 講師：県健康づくり室保健師 講義「難病の基礎知識とその援助」 講師：伊賀保健福祉事務所保健師	18名 ホームヘルパー1級課程又は2級課程修了者
平成20年3月10日 伊賀庁舎	講演「プリオン病について」 講師：三重大学医学部付属病院神経内科医師 質疑応答	7名 在宅支援関係者
平成20年3月27日 伊賀市 ふれあいプラザ	講演「クロイツフェルト・ヤコブ病の知識と対応について」 講師：三重大学医学部付属病院医療福祉センター 部長(神経内科医師) 質疑応答 ※伊賀市社会福祉協議会・伊賀市包括支援センター主催	47名 伊賀市の訪問看護・訪問介護など従事者

オ 患者及び家族への協力

(ア) SCD三重の会(伊賀地区世話人会)への支援

平成17年度に難病相談支援センターが設立され、患者家族会の育成について保健福祉事務所の役割が変化する中、伊賀地域では以前にSCDの患者の集まりがあった経緯から、特にSCD三重の会(伊賀地区世話人会)の今後の活動について下記のように会議を持って相談に応じた。

SCD三重の会(伊賀地区患者・家族会世話人会)への協力状況

開催日・場所	内容	参加者
平成19年4月11日 伊賀庁舎	・三重SCDの会の今後の活動について(津わかばの会の役員から説明) ・伊賀地区の19年度の活動について	津わかばの会役員 SCD伊賀地区世話人 保健師
平成19年5月24日 伊賀庁舎	難病相談支援センターとの役割について確認	SCD伊賀地区世話人 保健師
平成19年6月17日 津庁舎	平成19年度SCD三重の会総会及び医療講演会	保健師

34107 医療分野の人材確保

(主担当: 保健衛生室 地域保健課)

主な取組内容

医療分野の人材確保のため、医療系・福祉系の学生に対し、保健福祉事務所(保健所等)実習指導を実施します。

1 看護学生等保健所実習指導

平成20年3月31日現在

学校名	学生数	グループ数	実習日数	備考
三重県立看護大学	2	1	9	※
三重大学医学部看護学科	5	2	19	※
鈴鹿医療科学大学医療栄養学科	3	1	5	
名古屋学芸大学	1			
鈴鹿医療科学大学医療栄養学科	3	1	5	
名古屋学芸大学	2			
合計	16	5	38	

※(実習日数に全員オリエンテーション含む)



343 高齢者保健福祉の推進
34301 介護保険制度の円滑な運営
 (主担当:保健衛生室 企画福祉課)

主な取組内容

1. 認定調査員、介護認定審査会委員の資質向上をめざした現任研修を実施します。
2. 介護事業者に対する指定および指導を実施します。
3. 介護サービスに対する苦情処理を適切に行います。

1 介護保険制度

平成12年に創設された介護保険制度は、被保険者数、要介護認定者数、サービス受給者数共に増え続け、これらに伴ってサービスに要する費用額も増えてきた。それらを踏まえ平成18年4月に制度改正がなされた。主なポイントは、①軽度の要介護者に対して状態の改善に向けた介護予防サービスが始まった。また、地域支援事業として、要介護状態にならないための介護予防事業が始まった。②地域の中核機関として「地域包括支援センター」が創設された。また、地域の特性に応じた柔軟なサービス提供が可能となるように地域密着型サービスが創設された。③サービスの質の確保・向上を目的として介護サービス情報の公表や事業者規制、ケアマネジメントの見直しが行なわれた。④保険料や制度運営の見直しが行なわれた。

(1)実施主体数 2保険者

- ・伊賀市
- ・名張市

(2)要介護認定者の状況

平成20年4月1日現在

保険者	人口 (人)	高齢者 人口 (人)	高齢 化 率(%)	要介護認定者数(人)							
				合計	要支援		要介護				
					1	2	1	2	3	4	5
伊賀市	101,906	26,275	25.8	5,773	594	1,205	961	992	755	704	562
名張市	83,300	17,228	20.7	3,039	338	492	659	490	430	372	258
合計	185,206	43,503	23.5	8,812	932	1,697	1,620	1,482	1,185	1,076	820

(3)介護度別居宅介護サービス受給者数

平成20年4月1日現在

保険者	要支援 1	要支援 2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	計
伊賀市	141	437	609	683	497	373	233	2,973
名張市	116	250	410	318	271	167	83	1,615
合計	257	687	1,019	1,001	768	540	316	4,588

(4)施設種類別サービス受給者数

平成20年4月1日現在

保険者	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	計
伊賀市	505	316	24	845
名張市	271	205	43	519
合計	776	521	67	1,364

(5)指定居宅・施設介護支援事業者数

平成20年4月1日現在

	事業者数	備考
訪問介護	43	
訪問入浴介護	5	
訪問看護	11	
通所介護	46	
通所リハビリテーション	8	
短期入所生活介護	12	
福祉用具貸与	8	
特定福祉用具販売	8	
特定施設入所者生活介護	1	
指定介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	13	739床
介護老人保健施設 (老人保健施設)	5	498床
介護療養型医療施設 (療養型病床群)	1	40床
介護予防訪問介護	40	
介護予防訪問入浴介護	4	
介護予防訪問看護	8	
介護予防通所介護	45	
介護予防通所リハビリテーション	6	
介護予防短期入所生活介護	11	
介護予防福祉用具貸与	8	
介護予防特定福祉用具販売	8	
介護予防特定施設入所者生活介護	0	

(6)介護認定調査員現任研修

認定調査に従事する者が要介護認定等における公平・公正かつ適切な認定調査を実施するために必要な知識、技能を修得・向上させることを目的とする。

開催日 :平成20年2月14日

参加者数:51名

- 内容 ① 講義
「認定審査会委員から見た認定調査について」
講師 :名張市介護認定審査会会長
②グループ討議演習
「認定調査で判断に迷うことについて」

(7)介護認定審査会委員現任研修

介護認定審査委員が要介護認定等における公平・公正かつ適切な審査判定を実施するために必要な知識・技術を修得・向上させること及び介護認定審査会における審査判定の適正化を図ることを目的とする。

開催日 :平成19年9月30日

参加者数:71名

- 内容 ① 講義
「三重県の介護保険の現状及び要介護認定について」
講師 :三重県健康福祉部長寿社会室長
②「模擬審査」
講師 :伊賀市介護認定審査会会長
:名張市介護認定審査会会長

(8)介護保険審査会

要介護認定に関する審査請求については、介護保険審査会の公益代表委員3名からなる合議体において審理され、裁決が行われます。

審査請求状況

	申請年月日	審査会開催日	裁決	備考
1	平成19年9月26日			平成19年10月5日取下げ

34302 介護基盤の整備促進とサービスの質の向上

(主担当:保健衛生室 企画福祉課)

主な取組内容

- 「第4次三重県高齢者保健福祉計画・第3期三重県介護保険事業支援計画」に基づき、年度別に地域の実情を勘案して、高齢者福祉施設の整備を進めます。
- 利用者の視点に立った、質の高い高齢者福祉サービスを提供できる人材の確保と環境整備を進めます。

1 社会福祉施設の状況

平成20年4月1日現在(単位:箇所数)

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	養護老人ホーム	老人福祉センター	特定施設入居者生活介護	老人憩の家
伊賀市	9(529床)	3(350床)	0	3	1	1	2
名張市	4(210床)	2(148床)	1(40床)	1	2	0	1
計	13(739床)	5(498床)	1(40床)	4	3	1	3